

## 「朝陽小学校の朝陽太鼓踊り伝承活動の取組」

### 1 学校名

薩摩川内市立朝陽小学校

### 2 学年・人数

平成29年度………1年（1人），2年（1人），4年（2人），6年（1人） 計5人

### 3 日時・場所

#### (1) 練習の日時・場所

平成29年6月下旬～8月下旬【主に日曜日】（朝陽コミュニティセンター）

#### (2) 発表の日時・場所

平成29年8月 諏訪神社での奉納，及び，各所での披露

平成29年12月 東郷で披露予定

### 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝承行事や史跡について

#### (1) 名称

朝陽太鼓踊り（ちょうようたいこおどり）

#### (2) 由来

1592（文禄元）年，豊臣秀吉の朝鮮に出征した島津義弘公が軍の士気を高め鼓舞するために打ち鳴らされた鉦と太鼓に，後で踊りを振り付けたのが始まりとされている。

#### (3) 構成等

現在の太鼓踊りは大別してカンメ（上名楽・朝陽），シモンメ（下名楽・山下），一本矢旗（素麵矢旗二副田楽・下手），アケスメロ（蜻蛉舞・中組，山口，平石）の4種があり，元村楽は副田楽の流れを取り入れている。主要楽器はいずれも大太鼓と青銅製の鉦である。踊り子の扮装は，カンメとアケスメロが郷土姿，他は農民姿を基本とするが，それぞれ特色のある工夫を凝らしている。

### 5 保存会や地域との連携の具体

平成20年から一時期（6年間）途絶えていたが，伝統ある太鼓踊りを地元の皆さんの協力によって大切に受け継ぎ後世に残そうと，平成25年に復活させた。名称を「朝陽太鼓踊り朝穂会」とし，後継者の育成に取り組んでいる。

今年は5人の小学生が練習に参加し踊っているが，なかなか新たな踊り手の発掘・人数の定着に達していないのが現状である。

※「朝陽太鼓踊り朝穂会」とは，太鼓踊りを通じて稲穂のように実り豊かに健全で頑張る朝陽の青少年を育成するという目的で結成された。

### 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

この勇壮な踊りは，平成8年旧入来町の無形民俗文化財に指定され，様々な機会を通じて披露されている。

現在，「地域の郷土芸能は地域で守り育てる」という強い意志から朝陽校区公民館と「朝陽太鼓踊り朝穂会」の方々が中心となって伝承されている。その関係で太鼓踊りに関わっている一部の家庭の子どもだけが参加しているに留まっている。学校も積極的に関わり，地域と一体となり太鼓踊りを継承していくべきところだが，平成30年3月をもって朝陽小学校が閉校になることから，学校が関与しての継承については，見通しが立っていない。

## 7 取組の様子（練習状況・発表の場等）



【太鼓踊りの準備風景①】



【太鼓踊りの準備風景②】



【旧増田家住宅での披露】



【朝陽コミュニティセンター前での披露】

## 8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【6年児童】

練習・本番とも大変な面はあったが、見ている方々が大いに盛り上がっていたのでうれしかった。

### 【2年児童】

人前で踊るのは緊張したが、「上手にできたね。」と言われてうれしかった。

### 【保護者】

踊れるか心配だったが、子どもなりに頑張って踊っていたので感動した。もっとたくさんの子どもが踊れるといいと思う。

### 【教職員】

本年度をもって閉校となるため、学校として関わることはできないが、地域力で継続させてほしい。

### 【保存会から】

夜間の練習や長時間の踊りであるが、子どもたちも頑張って踊っていた。子どもたちの踊り子を確保するのが厳しい現状があったが、今後、更に深刻化すると予想される。

### 【地域の方から】

小さな子供から、大人まで1つの輪になり踊る姿は特別な気がする。こうやって踊った子どもたちがやがて大人になって、次の世代に伝えていくことができたらうれしい。